

Inquiry-based Study ～自分自身と自分のふるさとの明日のために～

通常の「総合的な探究の時間」、ならびに課外活動として行った活動を紹介します。

12月16日(月) 3学年：JICA 北海道教師海外研修(ザンビア) ワークショップ

9月10日(火)に実施した夏休み期間中、JICAの派遣事業でザンビア共和国に行かれた本校の田中眞先生による報告会から3か月がたった12月16日(月)に、「次世代を担う生徒が、多様性の尊重、地域社会の課題解決を図るための主体的な行動力を養う」ことを目的とした、ワークショップが本校第2体育館で開催されました。

参加した3年生からは、ザンビアが良い方向に進むアイデアとして、

「政府が他国などから、クラウドファンディングなどをして資金を集め、企業が有害なガスが出ないよう自然なエネルギーを利用したゴミを分別する工場を作り、そこに人が働きに来て、学校では教師が生徒たちに環境問題についてなど詳しく説明し、その学校にゴミを分別する工場の人や、政府の人に来てもらい、実際に講義をしてもらうことで、将来生徒たちがその工場に興味を持ったり、ザンビアを良くするためのアイデアを考えたりすることで、ザンビアが良い方向に循環できる制度になるのではないかと考えた。」といったものや、

「ザンビアは勝手に持っていたイメージとはかけ離れていて素敵な国だと感じました。修学旅行で台湾に行ったあと、日本だけでなく世界を見られるようになったこと、自分から新しいことに挑戦することを恐れなくなったことなど色々成長しました。今回、ザンビアの話聞いて、さらに広い目で見た目標とか、行ってみたい国、やってみたいことが増え、少し成長できたと思います。こうやって日本とは少し違う文化や生活をしている国を知ることとはとても楽しいです。将来、もっと視野を広げて世界中のたくさんの人たちに貢献できる看護師になりたいと思いました。」など、参加した生徒が感じたことや考えたことなどの意見がでて、とても充実した国際事情についての学びの時間となりました。



2024 S-TEAM 教育推進事業

「探究チャレンジ石狩」「社会との共創」推進プロジェクトに出場

昨年度より、北海道教育委員会主催の、S-TEAM 教育推進事業「探究チャレンジ石狩」、「社会との共創」推進プロジェクトの「グローバル型」に参加しています。

今年度は、12月11日（水）に実施された「探究チャレンジ石狩」では、2-6の代表生徒（西川くん、後藤くん、小林くん）が、地学基礎の授業一環として行った探究活動として「避難所生活で非常食を有効活用し食事を彩らせるには」と題し、災害時に備えた非常食の備蓄やよりおいしく作ることの大切さを訴えかける発表しました。

1月10日（金）に実施された「社会との共創（グローバル型）」では、2-3の代表生徒（内田さん、佐藤くん、佐藤さん、中村さん、ヌリさん）が「千歳市の『産・学・官』で取り組む「カーボンニュートラル」と題し、英語で千歳市、ラピダス社、ならびに今回の発表メンバーの三者で協働してできることなどについて提言する発表をしました。

なお、「社会との共創（グローバル型）」では、全道大会で2位となり、2月1日（土）に北海道大学を会場に実施される「探究チャレンジ・アジア」にて、韓国、ベトナム、タイの高校生とともに、英語での発表・交流大会に出場することになりました。

<探究チャレンジ石狩>

避難所生活で非常食を有効活用し 食事を彩らせるには

2-6 12グループ

西川佳佑 後藤銀次郎 小林昌史

なぜこのテーマに？

避難所での生活
は不安や苛立ち
が起きやすい。



非常食を使い美味しい
料理を作ることが出来た
なら、少しは気持ちも楽
になるのでは？

作ってみての感想

- ・手間はかかるけど、カロリーメイトより美味しいし量も多くなるので被災時に子どもに作ると思った。
- ・ホットケーキミックスの消費期限が切れそうになったら使って新しいのを備蓄する
- ・カロリーメイトは味が豊富！色々な味を楽しめる！



SECTION 2

Methods

Hypothesis

students would see carbon neutrality as a personal issue

by

1. engaging directly with local and global communities
- and
2. sharing findings on SNS

Carbon Neutral Project

by the "Industry-Academia-Government"
Collaboration in Chitose City

Hokkaido Chitose High School

Manami UCHIDA, Anna SATO, Hiromu SATO, Haruna NAKAMURA, Hamida NURI

The 17 Sustainable Development Goals



SECTION 2

Methods 1. engaging directly with local and global communities

(5) November 29: **Rapidus Chitose Interview** @ Rapidus Chitose Office

